

札幌でセミナー

阿部氏「臨床の質高める」

シミュレーション教育を解説

シミュレーション教育指導者育成セミナー(主催・カレスサポートクリニックシミュレーションセンター)が札幌市で開かれ、東京医科大学病院シミュレーションセンターの阿部幸恵センター長(教授・看護師)が講義。医療機関の看護師教育にシミュレーション教育を導入することで、臨床の質が高まると訴えた。



セミナーには道内医療機関の教育担当者ら40人余が参加

同教育の定義は、臨床
を模倣的に再現した環境
下で、学習者が「問題発
見と解決する経験を経
て、仲間と振り返りつつ、
知識と技術を統合させて
実践力を向上すること」と
説明。患者に危害を与
える心配がない上、新人
看護師ら学習者のレベル
に合わせて難易度を調節
しながら、繰り返し学習
できる点をメリットに挙
げた。

指導者は学習者に問
いかけて考えさせ、答え
を導くファシリテーター
の役割を担い、能動的に
動くよう仕向けることが
必要と強調。模擬患者や
マネキンに加え、机上訓
練を用いた教育の流れは
「事前学習」「ブリーフィ
ング(導入)」「シミュレ
ーション」「デブリーフィ
ング(振り返り)」「評
価」の順とした。

プログラム設計は、学
習者の▽好奇心を刺激▽
臨床に役立つ▽やればで
きる▽満足な結果を予測
の上で経験▽やり続けた

看護